

1. シンポジウム「反乱する若者たち——1960年代以降の運動・文化」 【2010年1月8日—10日】



「世界同時多発的に行われた1968年前後の市民や学生の運動から40年が経過し、その後の冷戦体制の終焉やバブル崩壊など20世紀末の大きな変動を分節点とする視角から、1960年代以後の時代を再検討することがいま促されています。

今回のプロジェクトでは、あの祝祭の季節とそれ以後の運動や文化をいまいちど問い直し、現在ただいま私たちの足もとで起こっている、学生や若者、女性あるいは知識人のアイデンティティをめぐる諸問題について議論する場をつくりたいと考えています。1960年代以後、何が変質し、何が獲得され、何が失われたのか。東アジアを視野に入れた世界的視点から一緒に考えてみたいと思います。」

こうした呼びかけのもと、国内外の研究者とアーティストが集まり、以下のプログラム(所属は当時)で国際シンポジウムを行った。また、2010年5月には、発表原稿をもとに報告書を刊行した。

【1月8日(金)】 ◎ プレイベント

映画上映：『圧殺の森』

(1967年、監督：小川紳介、16ミリフィルム提供：アテネ・フランセ文化センター)

紹介：畑あゆみ(アルスター大学博士課程)

ギャラリー・トーク：特別な他者——アートという場における「連帯」

アーティスト：高橋耕平、大崎のぶゆき、田中さつき、澤崎賢一

企画・司会：茂登山清文(名古屋大学)

◎ 新世代パネル

〈反抗者〉たちとその系譜——Singularité et Universalité

杉淵洋一(名古屋大学博士課程)

「反抗する日本知識人の一系譜——父・鶴見祐輔と子・俊輔」

御園生涼子(学術振興会特別研究員(東京大学))

「法の宙吊り——大島渚『絞死刑』(1968)における国家と発話主体」

渡辺克典(名古屋大学)

「障害者運動の歴史と隘路」

津田久美子(お茶の水女子大学博士課程)
「フランスMLF(女性解放運動)の誕生と分裂、その後の発展
——1968年以降におけるフランス・フェミニズムの動向」

ディスカッサント:松浦雄介(熊本大学)
司会:杉田智美(名古屋大学博士課程)
企画:杉淵洋一

◎ 映画上映

『にっぽん零年』
(1968年、監督:藤田繁矢・河辺和夫他、DVD提供:日活)

【1月9日(土)】 ◎ 基調講演

西川長夫が語るパリ五月革命

講師:西川長夫(立命館大学)
対話者:水嶋一憲(大阪産業大学)

◎ シンポジウム第I部

東アジアの運動と主体

報告:趙寛子(中部大学)
「60年代以後の韓国学生運動史を再考する」

報告:丸川哲史(明治大学)
「60年代中国をどう歴史化するか」

報告:小林敏明(ライブツィヒ大学)
「"Where have all the flowers gone?"」

コメント:テッサ・モリス・スズキ(オーストラリア国立大学)
第1部討議 司会:坪井秀人(名古屋大学)



【1月10日(日)】 ◎ シンポジウム第Ⅱ部

女性と運動・消費・文化

報告：ヴェラ・マッキー（メルボルン大学）
「1960年代をジェンダー化する」

報告：高みか（シェフィールド大学）
「チマ・チョゴリの女たち——日本映画と在日女性、その声の不在」

報告：依田富子（デューク大学／ハーバード大学）
「ガールタイム——1970年代以降の消費文化とジェンダー」

第2部コメント：加納実紀代（敬和学園大学）
第2部討議 司会：藤木秀朗（名古屋大学）



◎ ラウンド・テーブル

全パネリスト+コメンテーター+西川長夫、司会：坪井秀人

【関連企画】 ◎ 特別展示

「写真と資料から見る「パリ五月革命」」

資料提供：西川長夫

▶ 1968年、パリに留学中だった西川長夫氏が遭遇した「五月革命」。西川氏がそこで撮りためた生々しい写真と収集した貴重な資料の一部を展示。



◎ 展覧会

「TとTたち——アーティストと、他者としてのアーティスト」

アーティスト：高橋耕平、大崎のぶゆき・高橋耕平・田中さつき
澤崎賢一+高橋耕平
企画：茂登山清文

▶ アーティスト個人の作品と、ユニットによる共作とを併置。そのなかで、アーティストとアーティストたちによる制作という特殊な連帯の有り様を見、またそれと68年の運動とをつなぐ線のありか(なしか)を探る。

2. 第2回 日本近現代文化研究センター講演会 [2010年3月8日]



国際日本文化研究センター教授の細川周平氏を講師にお迎えて講演会を開催した。氏の原著『シネマ屋、ブラジルに行く——日系移民の郷愁とアイデンティティ』（新潮社）や『遠きにありてつくるもの——日系ブラジル人の思い・ことば・芸能』（みすず書房）を踏まえつつ日系ブラジル人の文学や文学サークルの歴史について考察するものであり、日系アメリカ人の文学を研究している日比嘉高氏からのコメントを受け、活発な議論が展開された。

◎ テーマ

植民地文学について——戦前ブラジルの日本語文学世界

講師：細川周平（国際日本文化研究センター）

ディスカッサント：日比嘉高（名古屋大学）

司会：坪井秀人（名古屋大学）

3. 第3回 日本近現代文化研究センター講演会 [2010年6月30日]



韓国の漢陽大学校・比較歴史文化研究所所長の林志弦教授をお迎えて講演会を開催した。ホロコーストと日韓関係の両方における多数の事例をもとに、ナショナリズムに関する問題群を広い視野から展望する、啓発的かつ刺激的な講演だった。

◎ テーマ

間太平洋的空間における犠牲者意識ナショナリズム

講師：林志弦

司会：坪井秀人（名古屋大学）